

ごあいさつ

生まれ育った地域や、住んでいる地域にたいする愛着を「地元愛」と称することがあります。地元を構成する要素は、人、文化、歴史、自然など多岐にわたります。そうした地元への愛着は、より良いまちづくりの最も基盤になるものと考えています。この特別展では、身近な自然の中から鳥をテーマに取り上げました。平塚市は、県内でもトップクラスに野鳥の種類が多く観察されている町です。それは、海、川、田園、里山という多様な自然環境が多くの野鳥を育ててきたためです。

今年が平塚市制施行90周年にあたります。およそ90年前の平塚ではどんな鳥が見られたのでしょうか？ その手がかりがいくつか残されています。大正13(1924)年から昭和7(1932)年まで平塚で過した作家・中勘助は、海岸付近の自然や鳥についての随筆や詩を残しています。詩人・北原白秋は、昭和4(1929)年に招かれて平塚新宿に滞在し、「平塚音頭」と「平塚小唄」を作詞しました。「平塚音頭」は「白鷺音頭」とも呼ばれ、群生する白鷺のようすが詠まれています。当時の白鷺は海軍火薬廠の松林で繁殖しており、近所の小学生は廠内へこっそり入って卵を見に行っていたそうです。

平成14(2002)年、白鷺が平塚市の鳥に制定されました。川や水田でよく見られ、歴史的にも市の鳥にふさわしいといえます。でも現在、市内でサギ類の繁殖は確認されていません。平塚市の発展に伴い松林は姿を減らし、川べりの林や藪が切り払われ、ねぐらや繁殖の適地が失われてしまったからです。野鳥をはじめ、さまざまな生きものと共存していける社会の構築が望まれます。

特別展をご覧になった皆さまが、野鳥を愛し、それが身近な自然へ、さらに地元愛へとつながっていくことを願い、タイトルを「野鳥愛」といたしました。開催にあたっては、野鳥愛にあふれた多くの方々から資料の寄贈・提供およびご助言をいただきました。ライフワークとして野鳥の撮影を続けている岡根武彦氏、野鳥観察グループ「こまたん」、バードカービング作家の遠藤勇氏、「平塚ゆかりの作家 中勘助を知る会」、丸島隆雄氏他、関係各所の皆様へ、この場を借りて心より御礼申し上げます。

令和4(2022)年7月

平塚市博物館

館長 浜野達也

もくじ

平塚の野鳥写真	1
実物大の鳥はく製	30
コラム：野鳥観察にお勧めの場所	40
こまたんと生物多様性調査	41
コラム：平塚で見られる外来種	60
遠藤勇のバードカービング	61
コラム：作家・中勘助と平塚の鳥	74

表紙・裏表紙の鳥類 左から

1段目 メシロ カワセミ ♀ スズメ ツバメ モズ 2段目 ウグイス ムクドリ カワラヒワ シジュウカラ エナガ
3段目 オナガ ジョウビタキ ♀ ヒヨドリ コガモ コサギ 4段目 ハクセキレイ コゲラ アオバト イソヒヨドリ ♀ バン
5段目 コチドリ ウミネコ オオタカ チョウゲンボウ シメ 6段目 カイツブリ カワウ ヒバネ **アオサギ** カルガモ
7段目 ヱグミ タシギ トビ ハシブトガラス ハシボソガラス (正) **ゴイサギ**